

● 環境省からのお知らせ ●

「GTFグリーンチャレンジデー2020オンライン」が開催！

毎年秋に「新宿御苑」を舞台に開催されるGTFグリーンチャレンジデーは、今年は初の「オンラインイベント」として開催。

「新しい生活様式」に合わせた新しいイベントの形として、オンラインの良さを最大限に活用したプログラムで、出演者・出展者のグリーンチャレンジと新宿御苑の豊かな自然をオンラインでお楽しみ下さい。

■開催日：2020年12月5日(土)～6日(日)

■URL：https://www.gtfweb.com/gcd2020/

GTFグリーンチャレンジデー2020オンライン

検索



環境省オンラインブースのご紹介！

環境省×郡山女子大学短期大学部地域創成学科
大学生が考える、福島の「環境再生」デザインの開発！

環境省と郡山女子大学短期大学部地域創成学科が連携し、福島の「環境再生」を想起させるデザイン開発のプロジェクトを進めています。大学生たちが試行錯誤を繰り返しながら完成させ



たデザインは、紙袋やエコバッグに使われ福島の「環境再生」を発信する関連イベントなどで配布予定です。どんな素敵なデザインにできあがったのか、イベント当日をお楽しみに！

環境省×伊達市×ふたば未来学園高等学校×保原高等学校
高校生が考案！規格外の桃で作ったスイーツが商品化！

環境省と伊達市では、フードロス削減に配慮し、規格外の桃を活用するためのプロジェクトに取り組んでいます。昨年より進めているプロジェクトはいよいよ大詰め！

ふたば未来学園の生徒がレシピを考案し、保原高校の生徒がパッケージデザインした桃のスイーツが、伊達市のパティスリーで商品化されるまでの取り組みを紹介します。



TVCM「中間貯蔵事業のお知らせ」の新作が放送！

環境省では、福島の復興に向け、除去土壌等の仮置場の早期解消に安全第一で取り組んでいます。新CMは、「輸送緊急時備え」と「輸送時間調整」をテーマに、11月2日(月)～8日(日)に福島県内4局(TUF、FTV、FCT、KFB)で放送。過去に放送されたCM含め、中間貯蔵施設情報サイトでもご視聴いただけます。輸送に関する安全対策や混雑緩和への取り組みをお伝えしていますので、ぜひご覧ください。



環境省の情報発信拠点

● 中間貯蔵工事情報センター



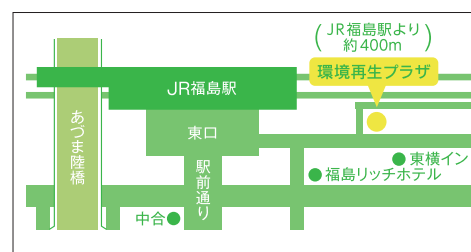
■所在地 福島県双葉郡大熊町
大字小入野字向畑 256
■開館時間 10:00～16:00
■休館日 日曜日・月曜日、年末年始
(月曜日が祝日の場合は翌平日)
■電話番号 0240-25-8377
中間貯蔵施設工事について紹介しています。
毎月バスによる中間貯蔵施設見学会(事前申込制)を開催しています。

● 特定廃棄物埋立情報館 リプルンふくしま



■所在地 福島県双葉郡富岡町
大字上郡山字太田 526-7
■開館時間 9:00～17:00
■休館日 月曜日、年末年始
(月曜日が祝日の場合は翌平日)
■電話番号 0240-23-7781
特定廃棄物の埋立処分事業について紹介しています。毎週末には参加型イベントや実験教室なども開催しています。

● 環境再生プラザ



■所在地 福島県福島市米町
1-31 1 階
■開館時間 10:00～17:00
■休館日 月曜日、年末年始
(月曜日が祝日の場合は翌平日)
■電話番号 024-529-5668
福島県の環境再生への取り組みなどの情報を紹介しています。常駐している専門家による解説や相談などを行っています。

ふくしま 環境再生 Vol.14



「ふくしま環境再生」では、環境省が進める環境再生事業や地域活性化事業などの情報を定期的にお知らせします。



環境省 福島地方環境事務所

環境省では、飯舘村長泥地区の復興に向けた環境再生事業を進めています。放射能濃度が1kg(キログラム)あたり5,000Bq(ベクレル)以下の除去土壌を、異物除去などの工程を経て再生資材化し盛土します。その上に汚染されていない土をかぶせ、営農しやすい農地を造成しています。今回は、環境再生事業の進捗をご紹介します。

review

いま環境再生事業ってどうなっているの？

柳などの草木

農地造成予定地

↓

除草・伐採を行い、その後
抜根などを行います。

↓

再生資材を盛土し、その上に50cm
汚染されていない遮へい土で覆い、
農地を造成します。

↓

将来的には作物が育てられる環境に。

Now

再生資材化ヤード



除去土壌を再生資材化する作業を行います。昨年度実施した実証試験により得られた知見を、今後の再生資材化に活かしていきます。

—長泥地区MAP—

除染・解体作業実施区域

福島県 飯舘村 長泥地区



農地造成予定地

Before

2020年8月4日撮影

農地造成の際に、支障となる草木の除草・伐採などの準備工事を行っています。

After

2020年9月8日撮影

準備工事が終わり次第、再生資材を盛土し、遮へい土で覆う農地造成を行います。

試験栽培の結果

表紙の写真のような形で、試験栽培をしています。再生資材を覆う覆土材での作物の生育や、再生資材に含まれる放射性セシウムが作物に与える影響を試験・分析し、作物の生育性・安全性を確認しています。

9月までに収穫された作物の放射性セシウムの濃度を検査したところ、0.1～2.3Bq/kgと厚生労働省の一般食品に関する放射性セシウムの基準値である100Bq/kgを大きく下回る結果となりました。

● 栽培された作物の放射能濃度測定値

	
■トウモロコシ:0.2Bq/kg	■カブ:(葉)2.3Bq/kg (根部)1.1Bq/kg
	
■ミニトマト:0.2Bq/kg	■キュウリ:0.1Bq/kg

column

コラム



長泥行政区 嶋原新一区長

インタビュー「前に進むことが大事なんだ」

—— 震災前はどんな暮らしでしたか？

兼業農家で米と繁殖牛、あとは自家消費のキュウリや白菜などの野菜を作ってたね。買うのは魚と肉だけ、こころ辺の住民はみんなそんな暮らしだったよ。

—— 震災後のことと、環境再生事業を受け入れるまでを聞かせてください。

当時、他の行政区と同じように除染や解体など行うように再三要望をしたが、長泥地区では、進まなかったんだ。だから荒廃した状態がいつまで続くのかすごく不安だったな。住民はますます高齢になるし、いつまでも待ってられない。前に進むことが大事だから、環境再生事業を受け入れたんだ。

—— 花や資源作物だけでなく野菜の試験栽培も始まりました。

我々住民側から事故前に長泥で作っていた野菜も育てたい、と要望したんだ。今夏に収穫された野菜の放射能濃度は基準値を大きく下回る値で、ホッとしている。

—— 今後、住民としてどんな課題と展望を描いていますか？

いま34ヘクタールの農地造成をやっている。その事業が終わったから「はい、終わり」じゃダメだな。住民はみんな高齢になっていくので、整備された広大な農地を小分けにされて渡されても何もできない。この大規模な農地を管理・運営するような担い手が必要になると思うんだ。縦割りを取っ払って村も県も国も連携して考えて欲しい。この地で農業が成り立つことを証明しないと。農業法人みたいな企業ができて、農業をやりたいと思っている人や、長泥の住民の孫たちが「長泥で働く場所があるなら移住してみようか」となれば理想だな。

飯舘村長泥地区における環境再生事業についての詳細は、中間貯蔵施設情報サイトをご覧ください。



飯舘村長泥地区 環境再生事業

検索